

令和6年度
自己評価結果

ひらやす保育園

1. 保育理念

子どもの幸せのため、子どもの権利条約（①生きる権利 ②育つ権利 ③守られる権利 ④参加する権利）を遵守し、人格主義の基本理念（誠実・忍耐・勤勉）と良心を育てる。

2. 保育方針

本園の教育・保育は園児の言語（英語を含む）、情緒、行動、社会性および身体の調和的発達を助長し、望ましい人間形成を目指すものである。

3. 保育目標

- ①情緒が豊かで明るい子ども
- ②よく考え、進んで行動する子ども
- ③仲良く遊び、協力し合う子ども
- ④身体が丈夫で逞しい子ども

4. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画

- ・保育所の特性を活かした保育の質の向上と保護者支援の充実
- ・仕事の効率化を図る

5. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	備考
(1) 建学の精神や教育、保育理念に基づいた保育園の運営状況	B	
(2) 保育園の状況を踏まえた保育目標等の設定状況	A	
(3) 保育園の保育課程、保育方針について保育士間の共通理解	B	
(4) 保育園行事の管理・実施体制の状況	A	
(5) 年間の指導計画や週案などの作成の状況	A	
(6) 遊具・用具の活用	A	
(7) 保育士間の協力的な指導の状況	A	
(8) 乳幼児に適した環境に整備されているかなど、クラス経営の状況	A	
(9) 保育所保育指針の内容に沿った乳幼児の発達に即した指導の状況 ・環境を通して行う保育の実施の状況 ・乳幼児との信頼関係の構築の状況 ・乳幼児の主体的な活動の尊重 ・遊びを通しての総合的な保育の状況 ・一人一人の発達の特性に応じた保育の状況	A	
(10) 日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断実施状況	A	

(11) 事故等の緊急事態発生時の対応の状況	A	
(12) 法定の安全計画や防災計画等の作成・実施の状況	A	
(13) 危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	A	
(14) 安全点検や、保育士の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	A	
(15) 個別の指導計画の作成の状況	A	
(16) 家庭との連携状況	A	
(17) 管理職の保育目標等の達成に向けたリーダーシップの状況、また多くの保育士からの信頼の状況	A	
(18) 保育園の明確な運営・責任体制の整備の状況	A	
(19) 各種文書や個人情報等の保育園が保有する情報の管理の状況、また、保育士への情報の取り扱い方針の周知の状況	A	
(20) 労働基準法等の各種法令の遵守状況	A	
(21) 保育研究の継続的实施など、指導改善の取組の状況	A	
(22) 園内における研修の実施体制の状況	A	
(23) 園内研修の課題の設定の状況	A	
(24) 園内研修・園外研修の実施・参加状況	A	
(25) 指導が不適切である保育士の状況の把握と対応の状況	A	
(26) 保育目標の設定と自己評価の実施状況 ・乳幼児や保育園の実態、保護者の意見要望等を踏まえた保育園としての目標等の設定の状況 ・目標等を踏まえた自己評価の項目の設定状況 ・自己評価が年に1回以上定期的に実施されているかなどの実施状況 ・自己評価の結果の翌年度の目標等の改善への活用状況 ・全職員が評価に関与しているかなどの体制の状況 ・自己評価の結果の設置者への報告と状況	B	
(27) 保育園に対する保護者の意見・要望等の状況 ・保護者の満足度の把握の状況 ・保育相談体制の整備状況、保護者の意見や要望の把握・対応状況	A	
(28) 保育園に関する様々な情報の提供状況	A	

(29) 保育園公開の実施の状況	A	
(30) 乳幼児の個人情報の保護の状況	A	
(31) 自己評価結果の公表状況	A	
(32) 園便りやクラス便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の提供状況	A	
(33) 情報提供手段として、Instagramを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	A	
(34) 保護者の実情や要望による保育園の子育て支援活動の実施状況	A	
(35) 園や保育士による受け入れ体制の状況	A	
(36) 施設設備 ・施設設備の活用状況 ・施設・設備の安全・維持管理のための整備の状況	A	
(37) 遊具・用具・図書等 ・遊具・用具・図書等の整備状況 ・保育環境の充実のための取組状況	A	

6. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画の考察

結 果	理 由
A	【年間計画に基づいた保育】 日々の保育内容を大切にし、行事にも繋げていけるよう計画を立てていたが、子どもの発達に沿った内容変更により、準備等が本番寸前までかかることがあった。子ども達の個々の発達に応じた広い視点で内容を選出し、臨機応変に組み替えることが出来るよう、見通しをもった計画を立てる必要があった。しかし、皆で案を出し合い、協力し合う事で日々の保育を無理なく行事に繋げることが出来、子ども達も主体性を持って活動に参加できたと思う。 また、一斉保育の中にも子どもの主体性を大切に、子ども達が自ら遊びに参加したい、関わりたいと思えるような環境作りに努めた。 【保育の質の向上】 感染症予防の目的以外では、マスクを着用せず、朝の会や絵本の読み聞かせ以外の場面においても、口元を見せて表情の変化で思いや気持ちを伝えることを意識し、子ども達の言葉の獲得に繋がるよう心掛けた。 コドモンのオンライン研修や外部研修で学んだことをまとめ、園内研修を通して皆で共有しながら学びを深め、それを保育に活かしていくことが出来た。

7. 総合的な評価結果

- ・クラス担任と各学年の担任同士で連携を図りながら、日々の保育や各行事を進めていく事が出来た。
互いの保育活動を意識しながら、合同保育を頻繁に取り入れていく中で、年上の子が年下の子の面倒をみようとする思いやりの心や責任感が育ち、年下の子は年上の子を目標として成長の意欲に繋がり、遊びの幅が広がったように感じた。
- ・晴天の日には積極的に外遊びを行い、子ども達と体を動かして元気に遊ぶことで五感を刺激し、自然環境への関心を高め、運動機能の向上に繋げる事が出来た。また、隣接する幼稚園にも足を運び、動植物との触れ合いや幼稚園のお友達との交流の機会を多く持ち、コミュニケーションの基盤づくりに努めることが出来た。
- ・普段行えない園内外の清掃や美化作業も登園児の少ない土曜日を利用し、皆で分担して行うことが出来た。
しかし、見慣れてしまっている場所は、汚れに気付かないことがあるため、普段から細かいところにも目を配り、汚れに気付いたらすぐに掃除し、清潔な園を保てるよう努めていきたい。

8. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
一貫性を持った保育	・全職員が園の保育目標、保育理念を意識し、一貫性を持った保育に努め、一斉保育の中の主体性を理解しながら、子ども達一人ひとりと丁寧に関わる。 ・見通しを持って保育計画を立て、子どもの発達に合わせながら内容を見直し、保育目標を達成できるように保育を行う。
職員のスキルアップ	・全職員が自分の業務以外の事にも目を向け、率先して出来る仕事を探し見て学び、考えて行動出来るようにする。 ・積極的に研修に参加して、学びを実践しながら、スキルアップに繋がるよう活かしていく。

◎「5.6」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である